

〈高齢者協同組合〉

## 「働けるうちは生き生きと働き、 働けなくなっても協同で豊かな老後」

竹森 幸男 (福岡県/福岡県高齢者協同組合副理事長)

### 高齢者協同組合設立宣言

福岡県高齢者協同組合のキーワードは「自立・協同・社会保障の充実で健康で心豊かな老後」です。日本国憲法第二五条は、「すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と高らかに生存権を宣言し、「国はすべての生活部面で社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」と国民の生存権を保障する事を義務づけています。高齢者社会が暗いものでなく、活気にみちた社会になる鍵は高齢者の長年の経験と知恵を生かしきるかどうかにかかっています。

福岡県高齢者協同組合は、人と地域が必要とする仕事おこしを事業の第一の柱とします。

「寝たきりにならない、させない」は私たちの合言葉です。働けるうちは生き生きと働き、働けなくなっても協同の力で豊かな老後を送ります。

これは10月22日設立された福岡県高齢者協同組合設立宣言の一節です。

### 農業と福祉で仕事おこし

人と地域が必要とする仕事は福祉と農業の分野にあります。農村には農業の基本となる土地が眠っています。いや強制的に減反で眠らされています。土を耕す人は減少し、食料輸入は増えています。昔から「身土不二」の原則という言葉があります。人間の身体は土と離れ難く結びつき、二つに離れる事の出来ない一体のものであるという意味です。土地によっては人間は四里四方で生産される物を食べるのが一番良いと語り伝えられています。私個人の事ですが、母は92歳、母の姉が100歳と96歳、妹が84歳、4人姉妹元気です。みんな百姓で「身土不二」の生きた証しです。

福岡県高齢者協同組合は農業を事業の重要な柱にしています。自治体、農協、地権者と協同し、各地に高齢者協同組合農園を作り、高齢者が積極

的に米や野菜づくりに参加するようにしています。高齢者だけでなく、若者や子どもたちも参加するようにしています。現在の若者や子どもたちはあまりにも農業の事を知りません。農業は命の源泉である食料を生産するだけでなく、命の大切さを教えてくれます。

化学肥料と農薬に頼る現代農業は収穫量を飛躍的に増加させましたが、自然の生態系を破壊したため土が病んできました。土も農作物も人間も薬漬けになりつつあります。

「医学は農業に学び、農業は自然に学べ」をモットーに福岡県高齢者協同組合は、無農薬有機農業農家と提携し、産直で健康と長生きに役立つ農産物を協同組合員に届けます。

### 寝たきりにならない、させない

農業と並んで、人と地域が必要とする仕事おこしのもうひとつの大きな分野は福祉です。

「ねたきりにならない、させない」は私たちの合言葉です。日本の福祉は本人の申請を原則としているため、本人が申請しない限りいくら該当者であっても自治体や国が進んで福祉サービスをする事はありません。本人が生活保護を申請しなかったために餓死したひとりぐらしの高齢者もいます。福岡県高齢者協同組合はすべての1人暮らし、2人暮らしの高齢者に呼びかけ必要な福祉サービスが受けられるようにします。同時にホームヘルパー、弁護士、医師など協同組合で必要な人が確保出来るようにします。要をなすのはヘルパーです。養成講座を開き大量のホームヘルパーを養成します。

自治体と委託契約を結び、ヘルパー事業を16年前から始めている西宮の経験に学び、寝たきりゼロの街づくりに参加します。

### 三重、沖縄、愛知に感謝

ところで福岡県高齢者協同組合の設立は全国で

四番目であります。これからやりたい事を語ればとても与えられた原稿の字数3200の枠に納まらないので、設立までの歩みの中で特に感じた事を述べておきたいと思います。

事業団運動から労働者協同組合運動に発展していく中で最初に高齢者協同組合の構想を提起されたのは日本労働者協同組合連合会初代理事長、現在三重県高齢者生活協同組合専務理事中西五洲さんでした。全日自労の中央本部委員長時代の民主的改革の提起、事業団運動の全国的な展開、労働者協同組合運動への発展、時には疑問を持った事もありましたが中西さんの提起の後を歩みつづけ、福岡県高齢者協同組合の設立までたどりついて改めて中西さんの先見の明の深さに驚きます。

中西さんだけでなく、福岡が今年の5月下旬県内5つの事業団が呼びかけ団体となって10月22日に設立総会を開く事を決めてから極めて短期間に設立総会を成功させたのは、この間に設立された沖縄、愛知の高齢者協同組合設立の成功が大きな力になっています。沖縄では琉球大学教授の武井先生が設立運動に積極的に参加され、初代理事長に就任されました。愛知でも多くの大学教授、知識人、文化人が呼びかけ賛同人になりました。

福岡でも学者、弁護士、医師等知識人が多数参加最初福岡では沖縄や愛知のように知識人の参加は難しいと思っていました。然し武井先生が紹介された武田先生が病院ぐるみ設立に参加され、沖縄、愛知の設立総会の成功を目にして福岡も学者、文化人の参加に自信が持てるようになりました。

10月14日九州大学名誉教授元長崎大学学長の具島兼三郎さんの90歳の誕生を祝う集いがありました。武田先生（現福岡県高齢者協同組合理事長）から、集いに行つて諸先生に高齢者協同組合の顧問をお願いしようではないかとの話があり、私には案内も来ていませんでしたが参加しました。主賓の具島先生を始め、九州大学法学部教授・石川捷治、長崎大学名誉教授・精華女子短期大学学長・佐々木元賢、九州大学名誉教授・尊厳死協会会長・間田直幹、九州大学名誉教授・内田一郎、九

州地区日本語教育施設協同組合代表理事・岩崎隆次郎の諸先生にその場で顧問を引き受けて戴きました。

#### 青春の火を燃やし理想を追い求めて

福岡県高齢者協同組合設立宣言は最後に福岡県民に呼びかけています。

「年を重ねただけで人は老いない、理想を失う時に人は初めて老いる」と詩人は歌っています。高齢者協同組合の理想を高く掲げて、永遠の青年として生涯青春を追い求める人たちによって、福岡県下各地で、医、農、福祉、文化が一体となった「福祉の里」「高齢者夢の里」づくりなどの構想が広がっています。

#### 福岡県民の皆さん

福岡県高齢者協同組合は思想、信条、性別、年齢に関係なくすべての福岡県民の皆さんに開かれています。設立総会に当たり、私たちは高齢者協同組合運動への参加を福岡県民の皆さんに呼びかけ、設立宣言とします。

#### 1万人の組合員目指して

福岡県高齢者協同組合は当面3000人の組合員で発足し、2年後には1万人にする決意です。設立総会の来賓挨拶で、石田静男Fコープ理事長は、生協も設立当時は組合員も少数でしたが、今では福岡県で生協組合員は90万人を超えました。高齢者協同組合も生協運動の経験から考えて私は発展すると確信しています。という力強い激励をされました。

福岡では設立で全国の4番目になりましたが、これから高齢者協同組合として事業を展開していく上でひとつの強みは、既に事業展開の土台を持っている事です。粕屋事業団は16年間の老人給食の実績があり、国の助成事業に認可されています。北九州・中間・遠賀事業団は農協と提携して年間2000万円の事業を行っています。これらの経験はすぐ高齢者協同組合の事業として引き継ぎ発展させる事ができます。

夢は大きく、事業は堅実に、福岡県高齢者協同組合は全国、全世界の協同組合員と連帯して歩みはじめます。